

令和4年度

山形県公立高等学校入学者
選抜学力検査成績概況

令和4年5月

山形県教育委員会

<目 次>

国 語

1 結果の考察	1
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	1
問題別正答率（%）	2

社 会

1 結果の考察	3
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	3
問題別正答率（%）	4

数 学

1 結果の考察	5
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	5
問題別正答率（%）	6

理 科

1 結果の考察	7
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	7
問題別正答率（%）	8

英 語

1 結果の考察	9
2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）	9
問題別正答率（%）	10

資 料

令和4年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況

（入学定員・入学志願者等の数・合格者等の数等）

1 年度別比較	11
2 課程別・学科別	12
3 推薦入学者選抜実施状況	13

国語

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

□の問四及び問六は、登場人物の心情の変化を描写を基に捉える力をみる問題だが、どちらも正答率は高く、学習の成果がみえる。文学的な文章を読むときには、文章の中の時間的・空間的な場面の展開、行動や情景の描写などに注意しながら読むことを大切にしたい。□の古典は、全体として正答率が高く、伝統的な言語文化に関する知識・技能、古典に表れたものの見方や考え方を理解する力が身に付いていることがうかがわれる。引き続き古典の文章を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいきたい。□の作文は、資料に示された情報を整理し理解する力と、自分の考えを理由を明確にしながら書く力をみる問題である。約7割の受検者が9点以上得点しており、学習の成果がみえる。一方で、高等学校から「資料の読み取りを生かして自分の考えを説明できていない」という報告も寄せられており、目的に応じて情報を整理した上で、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する態度を育てたい。

(2) 課題がみえる問題

□の問五は、登場人物の設定の仕方について、描写を基に捉える力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。登場人物の人物像や相互関係を捉えるとともに、登場人物の言葉や行動が話の展開などにどのように関わっているかを考える学習に取り組むたい。□の問三は、指示する語句の内容を叙述を基に捉える力をみる問題だが、正答率が5割を下回り、課題がみえる。文章の中心的な部分と付加的な部分を正確に捉える学習を心掛けたい。□の問五は、原因と結果など情報と情報との関係について理解した上で、叙述を基に要旨を把握する力をみる問題である。部分点を含め正答率が約6割であるが、高等学校から「対比の構造に注目して内容を読み取れていない」という報告が寄せられている。説明的な文章を読むときには、文章の構造を踏まえて、キーワードやキーセンテンスなどに留意して情報を整理し、正確に要旨を捉え、それを的確に表現できるような学習に取り組むたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 国語で正確に理解し、適切に表現することができる

基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図りながら、国語で表現された内容や事柄を正確に理解することや、国語を使って内容や事柄を適切に表現することができる。

(2) 主体的に読書に取り組むことができる

知識を広げたり、自分の考えを深めたりすることができるよう、図書館を活用するなどして、主体的に読書に取り組み、集めた情報を活用することができる。

(3) 授業者は、目指す資質・能力の確実な育成に向けた授業計画と評価の工夫を

授業者は、単元で育成する資質・能力を焦点化した年間指導計画を作成するとともに、言葉による見方・考え方を働かせて深い学びを実現する学習過程を大切にし、資質・能力の育成に適した言語活動の充実を図りたい。その上で、資質・能力が身に付いたかどうかを適切な評価規準に基づいて評価し、指導の改善につなげたい。

二 問 問四II 本文に即した内容であること。 問五「使用するモノ」「購入」「資金」が用いられており、本文に即した内容であることを示すこと。	4 3 6 4 2 2 2 2 2 2						27					
	問七	問六	問五(例)			問四(例)		問三	問二	問一		
	ウ	イ	い	の	や	た	自	子	生			
			う	人	必	ち	分	孫	活			
			う	に	要	々	や	の	の			
			動	雇	な	々	々	代	基			
			に	わ	モ	々	々	々	々			
			変	れ	ノ	々	々	々	々			
			化	て	を	々	々	々	々			
完 解 15.6												
50~99% 37.4												
1~49% 6.2												

備考

										27		
問七	問六(例II)		問五(例)		問四(例)		問三(例)		問二		問一	
イ	味方		思		や		「お		想		かん	
	してく		い		わ		母		いを		たん	
	れている		描		ら		さ		を		ん	
			く		げ		ん		活		ん	
			幸		る		一		か		ん	
			せ		る		に		せ		ん	
					44.7		に		る		ん	
					79.0		に		る		ん	
					67.3		に		る		ん	
備考												

【注意】この採点基準によって処理したい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

① 語彙・表記	3	② 構想・叙述	6	③ 内容	9	18
A B C	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D	A B C D	
(3) 書写・表記						
○ ○ 文字が正しく、表記や語句の用法が適切であるか。						
○ ○ 文字の大きさ、配列など、文字が整っているか。						
(2) 構想・叙述						
○ ○ 二段落で構成されており、二〇〇字以上二四〇字以内で書かれてあるか。						
○ ○ 第一段落には、グラフを見て気づいたことが述べられ、第二段落には、自分の考えが、その考えた理由を含めて述べられているか。						
○ ○ 文章の組み立てや展開が適切で、叙述の仕方が的確であるか。						
(1) 内容						
○ ○ グラフを見て気づいたことが、明確に述べられているか。						
○ ○ 「これからの自分に必要な言葉の知識や能力」という題に即して、理由を明確にしながら、自分の考えを深めているか。						
○ ○ 第二段落で述べられている内容が、第一段落で述べられている内容を踏まえたものになっているか。						

14点~18点	22.6
9点~13点	44.4
5点~8点	24.1
1点~4点	5.8

3 2 2 2 2 2					13	
問一						
問二	5	4	3	2	1	
エ	推測	盟約	倉庫	貸す	肺	
	91.1	69.3	56.4	87.9	77.4	93.4
備考						

4 4 3 2 2					15	
問一						
問二	問三	問四	問五(例)	尊い	考え	
ウ	B, D	いたる	人間	す	す	
	84.4	61.5	59.1	194.2		
備考						

社 会

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

②の3は、日本の地域的特色について、複数の資料を読み取り、読み取った内容から思考・判断したことを適切に表現する力をみる問題だが、正答率が9割を超えており、学習の成果がみえる。様々な資料を基に、多面的・多角的に考察したり、思考・判断したことを説明したりする学習が十分に行われていることがうかがわれる。⑤の1(3)は、現代の社会的事象の意味や意義を説明する力をみる問題だが、正答率が7割を超えており、学習の成果がみえる。政治に参加する権利を行使する良識ある主権者として、主体的に政治に参加することについて、関心が高いことがうかがわれる。①の4、④の5(2)は基礎的な知識をみる問題だが、正答率が9割を超えており、日常の学習において、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識の習得が図られていることがうかがわれる。

(2) 課題がみえる問題

②の5は、日本の諸地域の自然環境や産業について、資料を読み取り、思考・判断する力をみる問題だが、正答率が低く、課題がみえる。様々な資料を活用して日本の諸地域の地域的特色を捉える学習を大切にしたい。④の1は、歴史の流れを問う問題だが、正答率が低く、課題がみえる。事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明する活動などを通して、我が国の歴史の大きな流れを、各時代の特色を踏まえて理解したい。⑥の1(2)は、現代の社会的事象について、資料を基に、思考・判断する力を問う問題だが、正答率が低く、課題がみえる。経済に関する様々な事象や課題を捉え、考察する際には、分業と交換、希少性などの概念的な枠組みに着目したり関連付けたりする学習を心掛けたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 身近な社会的事象について説明したり議論したりすることができる

身に付けた基礎的な知識を活用して、社会的事象の意味・意義や特色、事象間の相互の関連を説明したり議論したりすることができる。

(2) 多面的・多角的に考察する学習に主体的に取り組み、学習の振り返りができる

持続可能な社会を築いていくために解決すべき課題について多面的・多角的に考察し、構想（選択・判断）することができる。学習の振り返りを行うことで、自分の学びや変容を自覚し、次の学びにつなげることができる。

(3) 授業者は、適切な課題の設定と協働的な学びの充実を

授業者は、生徒の気付きや疑問を生かした単元を貫く課題（問い）を設定し、生徒と課題（問い）を共有したい。また、多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を育成するため、協働的な学びや、思考・判断したことを表現し合う場を設定することを心掛けたい。さらに、社会的な見方・考え方を働かせることができるようにする発問、問い返し等の教師の働きかけによって、社会科としての本質に迫る深い学びを実現させたい。

社 会 問題別正答率 (%)

(全日制の課程の全受検者から5%を抽出)

1	18	1	1	B	国	65.1
		2	2	イ		77.3
		3	3	(1) (例) 南半球に位置している		59.6
		3	3	(2) 記号 ウ 気候帯 温帯		56.1
		2	4	内陸国		91.8
		3	5	エ		54.1
		3	6	(例) 緯線と経線が利用され、直線的である		68.6

2	17	1	1	ア、エ		76.9
		2	2	イ		70.2
		3	3	(例) 原油の輸入に便利な、臨海部に立地している。		93.3
		4	4	(1) 促成栽培		73.3
		4	4	(2) (例) 供給量が少なく、価格が高くなっている		78.8
		5	5	記号 エ 県名 徳島 県		33.3
		6	6	ウ		85.9

問	備 考
1	3(2) 記号と気候帯が両方できて正答とする。
2	1 順序は問わない。全部できて正答とする。 4(2) 「供給量」「価格」が用いられていること。 5 記号と県名が両方できて正答とする。
3	1(1) 「戸籍」が用いられていること。

3	18	1	1	(例) 戸籍に登録された人々に口分田		72.9
		1	1	(2) ア		79.6
		2	2	承久の乱		65.9
		3	3	(1) 石高		67.5
		3	3	(2) ウ		71.0
		4	4	(1) 徳川慶喜		47.8
		4	4	(2) イギリス		64.7

4	17	4	1	ウ → ア → エ → イ		25.1
		3	2	五・四運動		69.0
		3	3	(例) 満州国を国として認めないこと。		41.6
		3	4	エ		78.0
		2	5	(1) イ		42.0
		3	5	(2) 非核三原則		94.9

5	15	1	1	(1) 最高裁判所		56.5
		1	1	(2) エ		43.9
		1	1	(3) (例) 一票の価値に大きな差が出ない		74.9
		2	2	2000 人以上		56.9
		3	3	(1) 民主主義		77.6
		3	3	(2) ア		80.0

問	備 考
4	1 全部できて正答とする。 3 「満州の占領地から日本の軍隊を引きあげること。」などでもよい。
5	1(1) 「最高裁」でもよい。 1(3) 「価値」が用いられていること。
6	1(1)Y 「労働時間や賃金などについて交渉する」などでもよい。

6	15	1	1	X 団結		63.1
		1	1	(1) Y (例) 労働条件について交渉する		61.2
		2	2	(2) ア		31.8
		2	2	(1) 南南問題		71.8
		2	2	(2) ODA		62.7
		2	2	(3) イ		85.5

〔注意〕この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

数 学

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①の2は、二次方程式の解を求める力をみる問題だが、正答率が高く学習の成果がみえる。解の公式を知り、二次方程式を解けるようになるだけではなく、解の公式が導かれる過程を知ること重視したい。②の2は、図形的な性質を捉え、作図する力をみる問題だが、正答率が高く学習の成果がみえる。図形の対称性や図形を決定する要素に着目し、見通しをもって作図できるようにしたい。②の3(1)は、方程式を活用する力をみる問題だが、正答率は8割を超えており、学習の成果がみえる。一方で、高等学校からは「どの数量を文字で表すか示していない」、「文字の説明を正しく記述していない」などの報告が寄せられている。方程式を活用するに当たっては、その立式の段階が重要である。事象の中の数量や数量の関係を式に表現する力を身に付けたい。

(2) 課題がみえる問題

②の1(2)は、関数の特徴について、式とグラフを相互に関連付ける力をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。関数の特徴を式やグラフで捉えるとともに、それらを相互に関連付けることで、関数についての理解を深めたい。③の2は、図形の性質を活用し、事象を考察する力をみる問題だが、正答率が低く課題がみえる。図形について見通しをもって考え、見いだした図形の性質を具体的な場面で活用する力を身に付けたい。④の1は、三角形の相似条件などを用いて、論理的に証明する力をみる問題だが、5割以上得点した受検者は全体の32.2%であり、課題がみえる。結論に至るまでの過程を、論理的に考察し表現する力を身に付けたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 学習したことを活用するために、数学的活動に主体的に取り組むことができる

授業での数学的活動を通して、基礎的・基本的な内容について実感を伴って理解した上で、問題解決の方法を一人一人が見いだし、自立的、協働的に解決することができる。

(2) 授業以外の日常生活の様々な場面で、学習したことを活用することができる

授業の中だけでなく、日常生活の様々な場面でも、学習したことを積極的に活用して考えたり判断したりすることができる。

(3) 授業者は、生徒が学びを広げ深める数学的活動の充実を

数や式、図、表、グラフ等に関連付けて、論理的に思考したり、表現したりする活動を通して、説明する力や記述する力を養いたい。また、生徒の思考過程を見取り、場に応じた働きかけを工夫することや、問題解決の過程や結果を振り返って、統合的・発展的に考察する機会を大切にしたい。

1		32		1	
	3	(1)	-6		95.7
	4	(2)	$-\frac{1}{8}$		85.9
	4	(3)	$3y-4$		84.7
	4	(4)	$10-2\sqrt{6}$		71.4
	5	2	$(3x+1)(x-2)=x-1$ (例) $3x^2-6x+x-2=x-1$ $3x^2-6x-1=0$ $x = \frac{-(-6) \pm \sqrt{(-6)^2 - 4 \times 3 \times (-1)}}{2 \times 3}$ $= \frac{6 \pm \sqrt{48}}{6}$ $= \frac{6 \pm 4\sqrt{3}}{6}$ $= \frac{3 \pm 2\sqrt{3}}{3}$		80.8
	4	3	$\frac{2}{5}$		60.8
	4	4	エ		41.2
	4	5	ア		47.1

2		28		2							
	1	(1)	-2		56.1						
		(2)	-4		26.7						
	2					80.8					
	3	(例) A地区の面積を $x \text{ km}^2$ とする。 $\frac{70}{100}x + \frac{90}{100}(630-x) = 519$ (1) (例) A地区の面積を $x \text{ km}^2$, B地区の面積を $y \text{ km}^2$ とする。 $\begin{cases} x+y=630 \\ \frac{70}{100}x + \frac{90}{100}y=519 \end{cases}$				84.7					
		(2)	168	km^2	39.6						
	4	(例) $n, n+1, n+6$ と表される。 このとき、それらの和は、 $n+(n+1)+(n+6)=3n+7$ $=3(n+2)+1$ $n+2$ は整数だから、 $3(n+2)+1$ は、 3の倍数に1を加えた数である。									
					<table border="1"> <tr> <td>100%</td> <td>29.0</td> </tr> <tr> <td>50~99%</td> <td>25.5</td> </tr> <tr> <td>1~49%</td> <td>21.2</td> </tr> </table>	100%	29.0	50~99%	25.5	1~49%	21.2
100%	29.0										
50~99%	25.5										
1~49%	21.2										

3		20		3	
	3	(1)	5		75.7
	3	ア	$y = -5x + 20$		58.4
	3	イ	9		78.8
	3	ウ	$y = 4x - 16$		49.4
	4	1	図3 		86.7
	4	2	12	秒後	13.3

4		20		4							
	1	<証明> (例) $\triangle ABC$ と $\triangle AHE$ において 線分 AB を直径とする円 O を考えると、半円の弧に 対する円周角は等しいから $\angle ACB = \angle AEH$ ① $OC \parallel AD$ で、錯角は等しいから $\angle HAE = \angle OCA$ ② $\triangle OCA$ は $OA = OC$ の二等辺三角形だから $\angle BAC = \angle OCA$ ③ ②, ③より $\angle BAC = \angle HAE$ ④ ①, ④より、2組の角がそれぞれ等しいので $\triangle ABC \sim \triangle AHE$									
					<table border="1"> <tr> <td>100%</td> <td>20.4</td> </tr> <tr> <td>50~99%</td> <td>11.8</td> </tr> <tr> <td>1~49%</td> <td>34.5</td> </tr> </table>	100%	20.4	50~99%	11.8	1~49%	34.5
100%	20.4										
50~99%	11.8										
1~49%	34.5										
	2	(1)	$2\sqrt{2}$	cm	14.1						
		(2)	$\frac{6}{7}$	cm	0.8						

[注意] この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

理 科

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

②の2(1)a、⑥の1は、第1分野及び第2分野についての基本的な知識をみる問題であるが、正答率はいずれも約9割と高く、学習の成果がみえる。学習の基礎となる科学的な知識が定着していることがうかがわれる。①の2(1)、⑤の1は、実験に関する技能を問う問題であるが、いずれも正答率は8割を超えており、学習の成果がみえる。実験操作を行う意味を正しく理解し、的確に表現する力が養われていることがうかがわれる。①の1(1)b、⑥の2は、科学的な思考力、表現力をみる問題であるが、正答率はいずれも約8割であった。今後も、科学的な知識や概念を使用して考えたり説明したりする学習活動を充実させるように心掛けたい。

(2) 課題がみえる問題

②の1、④の2、3、⑥の4は、観察、実験の結果を基に、思考し、判断する力をみる問題であるが、正答率が低く、課題がみえる。見通しをもって観察、実験を行い、得られたデータを分析して解釈し、適切な判断を行うような学習活動を充実させるように心掛けたい。⑤の3(1)は、実験の過程を踏まえて、理科の学習で得た知識及び技能を活用して、思考し、判断する力をみる問題であるが、正答率が3割を下回った。実験の過程を重視し、実験の結果を科学的な知識と結び付けて考察するような学習活動を充実させるように心掛けたい。⑧の3は、電磁誘導について、自由落下と関連付けて思考し、判断する力をみる問題であるが、正答率が3割を下回った。科学的な根拠に基づいて議論したり、日常生活や社会における科学の有用性を実感できるような場面を設定したりして、科学的に探究する態度を養いたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

- (1) 科学的な知識や概念を使用したり、日常生活や社会と関連付けたりできる
自然の事物・現象に関して、科学的な知識や概念を使用して説明したり、日常生活や社会と関連付けて科学的に考察したりすることができる。
- (2) 見通しをもって観察・実験を行い、考察したことを科学的に表現できる
観察・実験の目的を自ら考え、根拠のある予想や仮説を立て、結果を見通した計画が立案できる。観察・実験の結果を基に課題に正対した考察を行い、その内容を科学的な概念を使用し、適切に表現することができる。
- (3) 授業者は、生徒の興味・関心を高めるとともに、科学的に探究する指導計画と、指導と評価を一体化させた学習指導の工夫を
授業者は、生徒の興味・関心を高められるような事物・現象を題材にして、探究の過程を効果的に位置付けた指導計画を作成したい。また、指導と評価の一体化を図るため、学習の成立を促すための評価という視点を重視することによって、指導のねらいに応じて生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというサイクルを大切にしたい。

1		13		1	
	2	a	根毛		67.8
	3	(1) b	(例) 接する面積が広がる		78.8
	3	(2)	ウ		67.1
	2	(1)	A		80.8
	3	(2)	ア		9.0

3		12	
1	断層	69.8	2
2	エ	83.9	3
(1)	カ	74.5	3
3	X	*126 km	4
(2)	Y	*22 時 22 分 55 秒	40.8

2		12		2	
	3	1	0.27 秒		40.8
	3	(1) a	感覚		89.8
	3	(1) b	中枢		80.0
	3	(2)	(例) 脳に伝わる前に、運動神経に伝わる		58.8

4		13	
1	惑星	72.5	2
2	エ	38.4	2
3	ウ	38.0	3
4	(例) 1年で、地球は約1周公転するのに対して、金星は約1.6周公転するため。	27.5	3
5	冬	9.0	3

問	備考
3	3(2) *の正答については、両方できて正答とする。

5		13		5	
	2	1	(例) 液体が急に沸とうするのを防ぐため。		85.5
	2	2	蒸留		78.4
	3	(1) a	*イ	b	*オ
	3	(2)	オ		54.1
	3	4	(例) 温度が変わらない		49.4

7		13		
1	(力の) 合成	59.6	3	
2		46.7	4	
3	a	*ア	b	*ウ
4		5.0	N	11.0

6		12		6	
	2	1	質量保存 (の法則)		96.1
	3	2	CO ₂		75.3
	3	3			45.5
	4	4	イ		35.7

8		12	
1	電磁誘導	72.5	3
2	9000	68.2	3
3	イ	27.1	3
4	磁界	55.3	3

問	備考
7	3 *の正答については、両方できて正答とする。
8	4 「磁場」でもよい。

問	備考
5	3(1) *の正答については、両方できて正答とする。

【注意】この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

英 語

1 結果の考察

(1) 学習の成果がみえる問題

①の2は、学校生活などの話題に関する会話を聞いて、要点を聞き取る力をみる問題だが、ア、イ、ウの全ての正答率が高く、学習の成果がみえる。授業での言語活動を通して、聞き手として必要な情報や話し手が伝えたいことを、聞いて理解できるようになっていることがわかる。②の1(1)は、正答率が高く、学習の成果がみえる。基本的な言語材料を繰り返し使用することで、学習内容が確実に定着していることがわかる。③の1は、対話文を読んで、図表を参考にしながら、内容を把握する力をみる問題だが、Xは9割、Y、Zは8割の正答率であり、学習の成果がみえる。社会生活で使われる様々な形式の視覚情報なども参考にしながら、書き手が伝えようとしている要点を把握する力が定着していることがわかる。

(2) 課題がみえる問題

①の1のNo.2は、日常的な話題について、英語を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取る力をみる問題だが、正答率が低かった。聞き取った情報を基に、思考して判断するような学習を心掛けたい。②の3(2)は、文構造を正しく用いて正しい語順で文を構成する力をみる問題であるが、正答率は5割を下回り、課題がみえる。授業などでは、コミュニケーションの中で繰り返し言語材料を活用し、学習内容を定着させたい。④の6Ⅰ、Ⅱは単に物語を読み取るだけでなく、「読むこと」と「書くこと」を統合的に活用する問題であるが、正答率が低く課題がみえる。「読むこと」を通じて得た知識などを活用し、「書くこと」を通じて発信できるようにしたい。

2 今後の学習のポイント（授業改善のポイント）

(1) 学習した表現を活用しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる

授業での様々な言語活動において、学習した表現を活用して、相手の考えを理解したり、自分の考えを積極的に伝えたりすることができる。

(2) 英語で聞いたり読んだりしたことを基に、自らの考えや気持ちなどを英語で伝えることができる

授業での言語活動で「聞くこと」や「読むこと」を通して学んだことを基に、自分の体験などと結び付けながら思考し、話したり書いたりして、自分の考えや気持ちを英語で発信することができる。

(3) 授業者は、育成を目指す資質・能力を明確にし、身に付けた知識及び技能を生徒が選択しながら活用する学習活動の充実を

生徒の実態や学年・領域別の目標を基として、授業における明確な目標を設定し、生徒と共有したい。また、言語活動を核とし、各領域で、思考・判断・表現することを繰り返す授業づくりを図りたい。

1		26		1	
	3	1	No.1	ウ	93.8
	3		No.2	ア	43.0
	3		ア	10	84.0
	3	2	イ	病院	86.3
	3		ウ	動物	94.1
	3	3	No.1	イ	37.5
	3		No.2	エ	83.6
	5	4	Greg: Look at this garden. Mika: It's wonderful. I will (enjoy drawing a picture of these flowers 86.7		

問	備 考
1	2 会話文に即した内容であれば正答とする。
2	3 (1) 全部できて正答とする。 (2) 全部できて正答とする。
3	2 対話文に即した内容であること。 3 *の正答については、順序は問わない。

2		18	
	(1)	or	91.8
1	(2)	umbrella	23.4
	(3)	instead	5.1
2	(1)	イ	61.3
	(2)	エ	48.0
3	(1)	X ア Y エ Z オ	58.2
	(2)	X ウ Y オ Z ア	47.3

3		16	
	X	オーストラリア	88.7
1	Y	カナダ	77.7
	Z	イタリア	77.3
2	(例) 新しい友達を作ったり、違った文化を学んだりできること。 57.0		
3	*イ *オ 57.8 68.4		

4		30		4	
	3	1	ウ	54.3	
	4	2	(B)	60.9	
	4	3	(例) 英語で書かれた本を読むこと。 60.9		
	3	4	(1)	(例) He went there by bus. 53.5	
	3		(2)	(例) No, he didn't. 48.8	
	5	5	オ → イ → エ → ア → ウ 37.5		
	4	6	I She learned about it when she ((例) joined a special program 41.0) at a university.		
	4		II Please come to the contest ((例) to see my presentation 28.5) next year.		

問	備 考
4	3 本文に即した内容であること。 4 本文に即した内容であること。 5 全部できて正答とする。 6 4語以上の英語で、本文及び対話文の文脈に合う内容であること。

5		10	
【評価の観点】			
(1) 内容			
○ 問われた内容に対して、自分の考えなどが明確に述べられているか。			
○ 自分の考えなどに対する理由や具体例が述べられているか。			
○ 4文以上の英文で、文と文のつながりなどに注意して書いているか。			
.....			
(2) 正確さ			
○ 文字や符号を識別し、語と語の区切りや語句の綴りなどに注意して、正しく書いているか。			
○ 文構造や文法事項などの知識を活用して、正しく書いているか。			

問	備 考
5	(例) I do my homework in the morning. At night, I become very sleepy and cannot study. So I get up early in the morning. I can do my homework better because it is very quiet.

正答率 82.0

[注意] この採点基準によって処理しがたい細部については、各学校で適正な基準を設けること。

令和4年度山形県公立高等学校入学者選抜実施状況
(入学定員・入学志願者数・合格者数等)

1 年度別比較

年 度		平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
中学校卒業業者数		10,276	9,798	9,613	9,112	9,324	
全 日 制	県 立	入学定員	7,080	6,840	6,720	6,720	6,600
		入学志願者等の数	6,876	6,426	6,203	5,786	5,554
		倍 率	0.97	0.94	0.92	0.86	0.84
		合格者等の数	6,396	6,000	5,829	5,400	5,261
		最終倍率	0.96	0.93	0.91	0.85	0.83
		充足率	90.3%	87.7%	86.7%	80.4%	79.7%
	市 立	入学定員	280	280	280	280	280
		入学志願者等の数	340	336	364	338	331
		倍 率	1.21	1.20	1.30	1.21	1.18
		合格者等の数	282	282	283	282	282
		最終倍率	1.21	1.20	1.30	1.21	1.18
		充足率	100.7%	100.7%	101.1%	100.7%	100.7%
	合 計	入学定員	7,360	7,120	7,000	7,000	6,880
		入学志願者等の数	7,216	6,762	6,567	6,124	5,885
		倍 率	0.98	0.95	0.94	0.87	0.86
		合格者等の数	6,678	6,282	6,112	5,682	5,543
		最終倍率	0.97	0.94	0.92	0.86	0.85
		充足率	90.7%	88.2%	87.3%	81.2%	80.6%
定 時 制	入学定員	280	280	280	280	280	
	入学志願者等の数	127	124	127	103	130	
	倍 率	0.45	0.44	0.45	0.37	0.46	
	合格者等の数	119	122	123	102	125	
	最終倍率	0.44	0.44	0.45	0.37	0.45	
	充足率	42.5%	43.6%	43.9%	36.4%	44.6%	
総 計	入学定員	7,640	7,400	7,280	7,280	7,160	
	入学志願者等の数	7,343	6,886	6,694	6,227	6,015	
	倍 率	0.96	0.93	0.92	0.86	0.84	
	合格者等の数	6,797	6,404	6,235	5,784	5,668	
	最終倍率	0.95	0.92	0.91	0.84	0.83	
	充足率	89.0%	86.5%	85.6%	79.5%	79.2%	

(注)

- (1) 中学校卒業業者数は、学校基本調査結果報告書の中学校3学年と義務教育学校9年生の生徒数の合計とする。
- (2) 入学志願者等の数=入学志願者数+併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (3) 倍率=入学志願者数÷入学定員
- (4) 合格者等の数=合格者数+併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (5) 最終倍率=受検者等の数÷入学定員
受検者等の数=入学志願者等の数-取消・欠席者数
- (6) 充足率=合格者数等の数÷入学定員×100

2 課程別・学科別

課程	区分	入学定員		受検者等の数		合格者数等の数		
	学科	人数	前年度比	人数	最終倍率	人数	充足率	
全 日 制	普通科	3,360	0	2,911	0.87	2,935	87.4%	
	専門教育を主とする学科	理数	80	0	108	1.35	81	101.3%
		探究	240	0	442	1.84	241	100.4%
		音楽	40	0	19	0.48	20	50.0%
		体育	80	0	74	0.93	74	92.5%
		農業	400	0	229	0.57	228	57.0%
		工業	1,120	▲40	890	0.79	859	76.7%
		商業	560	▲40	563	1.01	506	90.4%
		水産	80	0	22	0.28	21	26.3%
		家庭	80	0	49	0.61	49	61.3%
		看護	40	0	26	0.65	26	65.0%
		情報	40	0	28	0.70	28	70.0%
		総合学科	760	▲40	477	0.63	475	62.5%
	合計	6,880	▲120	5,838	0.85	5,543	80.6%	
定 時 制	普通	200	0	105	0.53	105	52.5%	
	工業	40	▲40	12	0.30	12	30.0%	
	総合学科	40	40	8	0.20	8	20.0%	
	合計	280	0	125	0.45	125	44.6%	
全定合計		7,160	▲120	5,963	0.83	5,668	79.2%	

(注)

- (1) 入学定員の増減はなし
- (2) 受検者等の数＝入学志願者等の数－取消・欠席者数
入学志願者等の数＝入学志願者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (3) 最終倍率＝受検者等の数÷入学定員
- (4) 合格者等の数＝合格者数＋併設型中学校から併設型高等学校への入学予定者数
- (5) 充足率＝合格者数÷入学定員×100

3 推薦入学者選抜実施状況

区分	課程 学科	全 日 制												
		普通	専門教育を主とする学科											総合学科
			理数	探究	音楽	体育	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	
入学定員	3,360	80	240	40	80	400	1,120	560	80	80	40	40	760	
募集人員	42	—	—	20	64	96	276	116	24	24	12	10	184	
志願者数	7	—	—	17	68	85	323	198	14	16	21	3	113	
内定者数	7	—	—	17	67	71	258	126	14	16	12	3	105	
志願倍率	0.17	—	—	0.85	1.06	0.89	1.17	1.71	0.58	0.67	1.75	0.30	0.61	
充足率	16.7%	—	—	85.0%	104.7%	74.0%	93.5%	108.6%	58.3%	66.7%	100.0%	30.0%	57.1%	

区分	全 日 制
	計
入学定員	6,880
募集人員	約 868
志願者数	865
内定者数	696
志願倍率	1.00
充足率	80.2%

区分	課程 学科	定 時 制			
		普通	工業	総合	計
入学定員		200	40	40	280
募集人員		—	—	—	—
志願者数		—	—	—	—
内定者数		—	—	—	—
志願倍率		—	—	—	—
充足率		—	—	—	—

区分	全 日 制・定 時 制 総 計
入学定員	7,160
募集人員	約 868
志願者数	865
内定者数	696
志願倍率	1.00
充足率	80.2%

<注>

- (1) 志願倍率＝志願者数÷募集人員
 - (2) 充足率＝合格内定者数÷募集人員×100
 - (3) 推薦選抜で志願者があった学校
全 日 制：27校（前年25校）
65学科（前年60学科）
 - (4) 募集人員（実施要項より）
普通科（小規模校）：30%以内
理 数 科：20%程度（実施校なし）
音 楽 科：50%程度
体 育 科：80%程度
職業に関する学科：30%以内
総合学科：30%以内
- ※県外志願者受入れを実施する場合は50%以内
※募集人員の計は各校で定めた人員を単純に合計したものである
- (5) 連携型選抜は含まれていない